

創立三十年  
文

千葉県立葉園台高等学校

## 発刊のことば

校長 伊井正美



昭和三八年、千葉県の飛躍的な人口の増加に伴なう進学者増を吸収する為の最初の高校として発足しました。本校が、充実発展を続け、今や県下屈指の名門校として、また地域農業を支える核として活躍できますのも、ひとえに、関係各位の多大なるご尽力、地元の皆様の多年にわたるご支援のたまものと、深甚なる謝意を表したいと思います。

さてこのたび、創立三十周年を迎え、ここに千葉県立薬園台高等学校創立三十周年記念誌を刊行することになりました。本校の歴史上、初の記録としてまとめられたものであり、過去三〇年の歩みをたどるだけでなく、今後の発展に寄与するものとなるよう心から願つております。顧みますと、本校は県立船橋高等学校習志野校舎に在学している生徒を編入して、普通科七学級園芸科一学級で開校しました。開校とは申しましても、当初は高校とは名ばかりの質素な佇まいからの出発でした。しかし、初代芦野孝一校長の強力なりーダーシップのもと、熱情あふれる教職員と生徒達が一丸となつて、明日の薬園台高校を夢みて、明るく、力強い第一歩を踏み出しました。以来三〇年、教育内容の充実、施設設備の拡充を図つてまいりました。私達は、この先輩達の労苦に報いるためにも、巨木のような本校のあゆみに、新たな年輪を刻みつけることはもちろんのこと、さらに高い理想を掲げ、幾多の試練を乗り越えて、二一世紀を担う若人が成長していくにふさわしい学校を築きあげていくことを目指しています。

今や薬園台高校の教育実践と数々の実績に対する評価、自由闊達なる校風のもと、築き上げられた伝統は、千葉県を代表する高校にふさわしいものとなつております。しかし、今後生徒減少期を迎える、多難な前途が予想されます。また、公教育に対する社会的意識の変化という問題も抱えております。幸いにして、本校には緑いきづく広大な校地に、心豊かな英才が集つており、加えて師弟同行の教師集団、地域の皆様の献身のご支援があります。これらをバネに、難問に対処し、教育内容の更なる充実に努め、ゆるぎない教育実践を敢行してゆく所存であります。

本誌発刊に際しての多大なるご協力に感謝申し上げるとともに、関係各位の一層のご支援、ご協力を心からお願い申し上げます。

## 自由闊達な校風を大切に

船橋市長 大橋和夫



千葉県立薬園台高等学校の創立三十周年を心からお祝い申し上げます。

また、創立以来、同校の発展を支えて来られました歴代校長先生をはじめ教職員の皆様、ならびにOB、父兄をはじめ関係者の皆様方に、深く感謝と敬意を表する次第です。

同校がここ船橋市に、船橋農林学校として移転されたのは昭和二一年と伺っております。その後、幾度かの歴史的な変遷を経て、昭和三八年、千葉県立薬園台高等学校として発足されました。

この薬園台は、徳川時代中期に幕府の薬草栽培地として、各種の薬草が栽培された由緒ある土地でございます。その由緒ある名にふさわしい薬園台高校の発展は、文化の薫り高いまちづくりを目指す船橋市の誇りであります。同校の校歌には、「学の種子まき 知恵の刈り入れ」と言う言葉がくり返されておりますが、この言葉に現わされるように、普通科と園芸科の二学科が融合しあい、生徒の諸活動が活発な楽しい学校を基調とする同校の自由闊達な校風に対し、大きな期待を持っています。

創立以来、卒業生の数も一〇、〇〇〇名を超えて、この中でも、初回の卒業生は既に働き盛りの四〇代になられており、様々な分野で中核的な推進者として活躍されております。また、卒業生の中には、親子二代にわたり三〇年の歴史の歩みの中に身を置いている方もいらっしゃると伺っております。

私たちの船橋市は今、二一世紀に向けて大きく飛躍する大切なときを迎えております。昨年からは新しい市の基本一〇か年計画「ふなばし未来2001」がスタートし、「豊かで住みよい国際都市」を目指したまちづくりを積極的に進めておりますが、こうしたまちづくりには、次代を担う青年たちの幅広い視野を持った人間性豊かな成長を欠かすことができません。

千葉県立薬園台高等学校が、三〇年のすばらしい歴史と伝統を礎にさらに力強く発展されますとともに、皆様のご健勝を心からお祈り申し上げお祝いのごあいさつといたします。

## 校 章 の 由 来



薬園台は徳川時代中期（八代將軍吉宗の時代）に幕府の薬草栽培指定地として各種の薬草が栽培された土地である。中でも龍胆（りんどう）は最もこの土地に適し長い間多量に栽培され社会のために貢献してきた貴重な薬草である。

本校の校章はこの植物を図案化し図案全体で地名に関係づけて「薬」の字をかたどっている。龍胆（りんどう）は正義と的確を旨とする本校の在り方を象徴するものである。

昭和三八年 一月一七日制定  
デザイン 山田 健男

## 校 歌

作詩 大木淳夫

一 番 三 野 の み ど り を く み て  
だ の や た の わ が 学 び 会  
健 け じ て つ と あ つ 、  
開 拓 の 心 燃 さ ん  
学 の 種 子 ま き 知 智 恵 の 剣 い れ  
薬 園 台 に 望 み あ り

二 下 志 津 と 相 呼 び こ た ん  
親 し や 親 し わ が 友 ど う  
自 ら 立 ち て は け み つ 、  
公 益 に 力 協 さ ん  
学 の 種 子 ま き 知 智 恵 の 剣 い れ  
薬 園 台 に 誇 り あ り

三 海 ば ら の 八 潮 路 ひ け て  
す ゆ や す ゆ わ が ふ る さ と  
り ん む り の 花 愛 い わ て  
情 操 を 清 ら か に せ ん  
学 の 種 子 ま き 知 智 恵 の 剣 い れ  
薬 園 台 に 誇 り あ り







薬高のシンボル「りんどう」



いに盛り上がる生徒館



正面玄関前



1991年りんどう祭で大



▲農場温室



文化ホール▲



農場管理室

# 創立三十周年を祝う

千葉県教育委員会教育長 奥 山 浩



千葉県立薬園台高等学校創立三十周年にあたり、千葉県教育委員会といたしまして、心からお祝い申し上げます。

本校の歴史を振り返る時、三十周年と言う年月は、薬園台高等学校発足時からといふことになりますが、その前身校としての過程にも大変興味深いものを感じます。

記録によりますと、本校は昭和一九年五月、市川市に私立興亞農林学校として誕生、その後船橋市に移転し船橋農林学校と改称し、昭和二一年六月に現在地に校舎を移転しております。そして、昭和二三年一〇月に船橋九か村による組合立習志野農業高等学校として生まれ変わりました。その後千葉県立船橋高等学校習志野校舎（農業科）となり、そして昭和三八年四月現在の校名である千葉県立薬園台高等学校（普通科七学級、園芸科一学級）として開校しています。概ね二年毎に設置者、校名改称、移転等の変遷を経ており、県下でも稀有な沿革を辿った学校であるといえましょう。

また、普通科と園芸科が併置されている本校の学科編成に農林、農業を母体としてその歴史を歩んだ前身校の伝統が流れていると思います。

千葉県立薬園台高等学校として発足以来三〇年、県下有数の学校として躍進し、地域の期待を担い、時代の要請に応えて、幾多の有為な人材を社会に送り出してこられました。

さらに、自由闊達な校風を培い、創造的な知性と円満な徳性を備えた実践力のある人間を育成するため、たゆまぬ努力を重ねてこられました。文化祭行事には、演劇等が数多く上演され、全生徒参加による文化祭の開催や、体育系の部活動も活況を呈するなど、教科外の教育活動も活発に行われている状況から、本校の、「知」だけに偏らないバランスのとれた教育実践を認めることができます。これも本校を心から愛し、ご指導くださいました歴代の校長先生をはじめ各先生方及び関係職員、また御協力頂きました地域の皆様、保護者各位並びに生徒諸君の努力の賜物と思う次第であります。

今後はこの教育実績を生かしながら、急速な発展と変貌を遂げつつある今日の社会の要請を十分受け止め、国際社会において活動で  
きる豊かな人間性と英知を備えた人間の育成をさらに期待したいと思います。

終わりに臨み、これまで本校の発展に御尽力下さいました関係各方面の皆様に厚くお礼申しあげますとともに、千葉県立薬園台高等  
学校の輝かしい伝統の継承と、限りない発展を心からお祈りして、お祝いの言葉と致します。

（略）

（略）

（略）

（略）

（略）

（略）

（略）

（略）

（略）

千葉県立薬園台高等学校　校長　奥山　義一

## 三十周年を祝して

PTA会長 中山幸村



千葉県立薬園台高等学校がめでたく三十周年を迎える、この記念すべき年に現職PTA会長でありますことに光栄と幸福を感じますとともに皆様と共に心からお祝い申し上げます。

この記念すべき年を迎えて本校の創立、新築その後、年毎に教育施設、環境が整備され、今日の姿になりましたのも歴代の校長先生はじめ当時の職員及び県の関係者、多くの先輩等、大勢の方々のお力の結集と積み重ねの御苦労が実ったからにはかなりません。開校当時の周囲の状況は、薬園台小学校の旧陸軍の兵舎である荒れ校舎と本校の一五教室とそれに続く建築中の一二教室だけで、通学の足ともいべき新京成電車は、当時単線であり、雨の日には通学路の道はぬかるみがひどく長靴なしでは歩くことも不可能な状態であり、体育の授業といえば毎時間グランド整備に追われ、入学式は東昇降口前で、又生徒総会も昇降口前や屋上などを利用して行われたと伺っております。当時の職員、生徒諸君の工夫と苦労に思いをはせますと頭が下がる思いでございます。

現在、校舎内装の改築及び文化ホール、第二体育館、部室等の新築も済み、教育環境はりっぱに整備されたと確信致します。このような恵まれた状況下にあって在籍しているという特権を授かりました生徒、父兄と致しまして、本校の良き伝統を引き継がなくてはならない責任を感じております。また、受験勉強一筋になりますがちな現在の学校教育の中で文化祭はじめ諸行事に情熱を傾ける自主自律、自由でのびのびした校風はこの三〇年間の長い蓄積の顕在化したものであるといつても過言ではないと思います。切磋琢磨にして楽しい学び舎それこそ教育の本望とするところであります。

最後にこの創立三十周年に当たり諸準備に携わつていただきました実行委員会、編集委員会、学校関係者の方々に、心から厚く感謝いたします。

薬高の三十年の慶 あと十月  
りんどうの咲く 夢を見るなり

(※中山会長の任期は平成三年から平成四年の六月迄)

## 創立三十周年に寄せて

同窓会長 湯 浅 治



昭和三八年四月、庭木らしい樹木もない、校舎の一部だけがポツンと立ち、その校舎前に並べられた椅子と新入生の頭だけが妙に私の脳裏に焼きついています。

私は本校園芸科第二回の卒業生の一人であります。創立当初一〇学級の普通科並びに園芸科の併設校として出発した本校も現在二四学級となり、施設設備の充実とともに着実な発展を遂げて参りました。またこの三〇年間に同窓会の諸兄も多数に至り、現在社会の中核、有為な人材としてあらゆる分野で活躍していることと想います。これも偏に先生方ははじめ関係各位の皆様の本校への深い慈愛と絶大なるご尽力の賜物と感謝し、厚く御礼申し上げます。幸運にも私は、同窓会の関わりで母校を訪れる機会が多く、先般、来校しました折に校長室に積まれておりました生徒会誌「りんどう」を偶然目に致しました。懐かしい思いで創刊号を開きますと、昭和三八年前期生徒会役員一覧の副会長、後期会長に私の名が明記されておりました。

あの当時ただがむしゃらに奮闘していた自分の姿と役員の顔が髪髪と重なり、今思いますとこそばゆいやら歯がゆいやらの自分が甦って参ります。しかしそこに一つの青春の燃焼を見る思いで感慨深いものがございます。と同時に三〇年にして初めて、名簿作成以外の記念事業に取り組むことになり、運動名や行事名さえ変更すればあの頃と全く同じ気持ちであることに気づきました。私の中で眠っていた母校への思いが回帰したということでしょうか。我ながら不思議な気持ちでおります。

おかげ様で皆様の御協力のもとで記念事業や、行事、校史等の編集の企画も着々と進み、現在、仕上げを迎える段階に入りましたことを一卒業生として喜び、また同窓会長として安堵しております。

創立三十周年を心から祝い、同窓会としてその一助を担い、是非とも成功させたいものと念じております。

# 目 次

口 紋

発刊のことば

自由闊達な校風を大切に

創立三十周年を祝う

三十周年を祝して

創立三十周年に寄せて

第一章 写真で見る三十年史

第二章 沿革概要

昭和三八年～平成四年四月

第三章 師弟通信

卒業生から恩師へ・恩師から卒業生へ

第四章 園芸科今昔

一 園芸科設立まで

二 施設と農作物の推移

三 農業教育と行事

四 推薦入学者の推移

五 卒業生の活動状況

第六章 教科の窓から

国語科

社会科

数学科

理科

英語科

体育科

芸術科

家庭科

園芸科

一三三

編集後記

第六章 分掌だより ..... 一四九

総務部・教務部・生徒指導部・進路指導部

管理部・保健部・図書部・事務部

第七章 生徒会活動の歩み ..... 一七一

生徒会本部および評議会・委員会活動

体育系クラブ活動・文化系クラブ活動

第八章 PTAの歩み・同窓会の歩み ..... 一四七

歴代PTA会長・広報係・同窓会役員所感

第九章 音 韻 信 ..... 一六九

職員在職一覧表 旧職員「葉園台の思い出」一言集

第十章 資 料 編 ..... 一八九

一 校地、校舎の変遷

二 校務分掌の変遷

三 委員会顧問一覧

四 文化系クラブ顧問一覧

五 体育系クラブ顧問一覧

六 年度別HR担任一覧

七 教務部関係

八 生徒指導部関係

一三三